

味久しもくず 藻屑を分かつ 遠つ人とおひと

領布振る嶺を望む玉島ひれやま たましま

令和六年九月十日 大中臣正比呂



遠つ人さよひめ つまこい 松浦佐用姫 夫恋ひに 領巾振りしより 負へる山の名【万葉集871】ひれ

唐津の浜崎海岸から玉島川をニキロ程上流に、川魚料理「あめげん 飴源」はあ

夏から秋は藻屑蟹もくずがに、鮎あゆ、鰻うなぎ、鯉こい、冬はスッポンが加わる。西には、悲恋の

佐用姫が百済救援軍の武将くだら、大伴狭手彦を見送った小高い鏡山かがみやまがある。

古いにしえを思いながら食する河川の恵みは、昔も今もひと時の至福である。